埼玉県ＩＣＴ活用　実践事例

# ＩＣＴで　授業　をＤＸ！

学年　小学校特別支援学級　　教科など　その他

## 離れていても、つながる！深まる！

使用するアプリケーション等
Microsoft Teams

単元・題材　「大空竹の子ニコニコあそぼう会」

本時の目標　竹の子学級の友達に、自分で考えた“伝えたいこと”を伝えることができる。
竹の子学級の友達と画面を通して、一緒に楽しくゲームをすることができる。

ＩＣＴを活用することで　できること

従来の対面式の交流では、徒歩で移動できる近隣の学校との交流に限られ、短い時間による１回だけの交流となり、せっかく知り合っても深まる交流とはならなかった。Teamsのオンライン会議を活用することで、移動時間のロスがなくなるだけでなく何度もオンライン会議による交流を行えるので関係を深めることができる。また、この取組なら近隣小学校以外とも交流を持つことができ、従来の交流より、より多くの児童同士の交流ができる。さらに、複数校と同じ取組を実施することで特別支援学級児童の自己紹介（ニュースを伝える）のスキル等も回を追うごとに上達させることができる。

## ＤＸ前（ＩＣＴを使っていなかった頃は・・・）

**1　導入**
①相手校に訪問し、あいさつ
→移動の時間のロス、安全面の確保、日程や活動場所の調整が大変だった。

**2　展開**
①お互いの自己紹介
②質問タイム
③じゃんけん列車などのゲームによる交流
→お互いの顔や動きを目の前で見たりすることでより伝わりやすい。
→実際に身体を動かしたり、握手などの身体的接触があったりすることでことでより交流が深まる。
（現実の交流のメリット、どうしても画面上の交流ではできないところ）
※今後、この部分をハイブリッド化していくことが求められる。
→準備や荷物の移動などに制約があった。

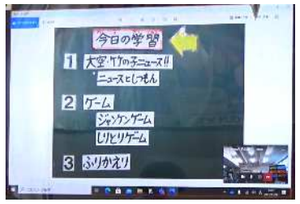
**3　まとめ**
①感想発表
②別れのあいさつ、見送り
→帰校の時間の制約があるため、十分な感想発表やあいさつができないときもあった。

DX!

## ＤＸ後　（赤字はICT活用場面）

**1　導入**
①Teams接続によるビデオ会議でのあいさつ（大型テレビに接続）
② 本時のめあてと学習の流れの確認（写真①）

めあて
・大空／竹の子学級の友達に、自分の学校で行っていることを伝えよう。（大空竹の子ニュース！）
・相手に伝わるように、原稿をゆっくりはっきりと読もう。
・みんなで一緒に楽しくゲームをしよう。
・質問や感想など、自分から手を挙げて発表しよう。



写真①

**2　展開**
③「大空竹の子ニュース」　Teams（ビデオ会議）での交流
●お互いのクラスで今取り組んでいること（写真②）
●一人ずつ発表後、質問（写真③）
● ビデオ会議だけでなく画面共有による写真画像を使った学校の紹介（写真④）


写真②


写真③


写真④

④ じゃんけんゲーム（写真⑤）

⑤ しりとりゲーム


写真⑤

**3　まとめ**
① ふりかえり
● 児童全員一人一言感想を言う。
● 教師側の感想を伝える。
② 終わりのあいさつをする。

授業者から（成果・課題・留意点）

【成果】・何度も交流することができ、従来の対面式より深くかかわることができた。多くの学校とも交流することができた。
・教師及び児童のICT活用技術が向上した。

【課題】・ゲームで交流するときは、やはり対面のほうがより深いかかわりができるので、今後はオンライン会議での交流ののち、活動の種類によっては実際に顔を合わせる機会を設けて実施したい。